

前回はスイングトレードで買いから入る場合を説明した。今回は、スイングトレードで売りから入る場合を考えよう。ほとんどの個人投資家は「株は買うものだ」と信じているようだが、これこそが根本的な間違いであり、約90～95%の個人投資家が通年で儲けられない最大の原因でもある。

株式相場が上昇トレンドの場合、あるいは底値圏で底打ちした直後は買いから入るのが正解だが、株式相

実学の株式投資技術の必要性(9)

株の株価は3カ月から6カ月ほどの時間をかけて徐々に上がる場合が多く、その間、3段から4段の上げがある。あるところまで株価が上がり、もうそれ以上は上げられなくなり、高値圏で保ち合いながら、しばらくはほぼ横ばいの動きをする場合が多い。やがて、自然に、あるいは何らかの悪い株価材料が飛び出してきて、高値圏での横ばいレンジを下抜けると、下げが加速する。

この頃になると、上昇トレンドライン(株価上昇時の2点以上の安値と安値を結んだ直線で、この直線の上で株価が推移している限

「売り」から入る 下落トレンド

場が下落トレンドの時には買いから入ると非常に高い確率で損をする。従って、下落トレンドでは素直に売りから入るのが正解である。東証1部の大型・中型



愛知淑徳大学 経済学部 教授
三矢 幹根

みつよし みきね コーポレート
ファイナンス・証券投資論 株式投
資・トレード技術。元ドイツ銀行
名古屋支店支配人。英国リーズ大
学経営学大学院・MBA(Fin
ance)。1959年生まれ。

り、上昇トレンドと判断できる(を)上から下へ抜ける。これが下げ相場の初動のサインである。ほぼ同時に、10日移動平均線も下抜けしているはずだ。ここからは買い目線ではなく、売り目線に変えなくてはいけないのだが、ほとんどの個人投資家は少し前までの上昇トレンド時の残像に邪魔されて、もはや下落トレンドに転換したことに気がつかないか、あるいはその事実を受け入れられない。その結果、あくまで買い目線が続ける。揚げ句の果てに、「上がってくれ」と祈るだけ。ける場合の約2倍となる。

そして、損を拡大する。下降トレンドに転換しても、しばらく下げ続ける間、ある程度反発し、一時的に10日移動平均線の上に浮上することがよくある。しかし、すぐに日移動平均線を再び下抜けすることがほとんどであり、この短期的な反発から再反落への転換ポイントが「戻り」であり、この「戻り」を狙って、空売り(現物の株を持たずに信用売りだけをする)する戦術が「戻り売り」である。戻り売りは次に下げ止まるまでの落差が大きく、成功する確率も相対的に高いので儲けの期待値が大きくなる。

具体的には、株価がまだ戻り途中で反発しているときに、毎日、10日移動平均線の少し下に逆指値成行売りの信用売り注文を入れ続ける。これで、株価がいつ反落し始めても、その初動で売り玉を建てることのできる。株価は戻り高値から再び下落を続けるが、やがてまた下げ止まり、反発し始めて10日移動平均線を下から上抜ける。この瞬間が空売りを手仕舞い(買い戻す)タイミングである。

具体的には毎日、10日移動平均線の少し上に逆指値成行で信用売りの返済注文を入れ続ける。これでいつ反発し始めても、反発初動で手仕舞いできる。

このように、空売りができれば、下げ相場でも儲けることができるので、年間のリターンも買っただけで儲ける場合の約2倍となる。